

研究計画書

ゼミ名	市野ゼミⅡ	チーム名	虫のきもち
タイトル	虫は世界を救い、人々を幸せにするのか？		
テーマ群	a)理論・情報 c)公共経済		
メンバー	下原明日香 清水敦貴 鈴木花奈 豊田悠夏 岡本壮倫 石田紗和子 上田啓司 松下祐介 寶地弘 岩佐和弥		
研究計画内容	<p>① なぜ、私たちは虫を食べないのか。一方で現在でも虫を食としている人は存在する。現在、一体どのくらいの人々が虫を食としていて、食べている人と食べていない人の差は何1なのか。虫を食とする人が存在するという事は、虫から得られるメリットがあると考え。虫を食としている人々が虫を好む理由は、味なのか、栄養やコストなのか。また、そのほかにも何か存在するのか。これらを他の食物等と比較しながら虫を食べることのメリット、デメリットについて検証する。</p> <p>② デメリットを越えるメリットがあるのならば、虫を食として普及させることで人々に幸福を与えることができるのではないか。また、虫を食べることで便益が得られるならば、それを新たなビジネスとして展開できると考える。コスト、栄養、味、生産性などから、どのようなビジネスが考えられるか市野ゼミから、新たなビジネスを提案する。</p> <p>③ ビジネスを展開して虫を食として普及させる場合、そもそも虫に触れる人が減ったと前述したが、逆に虫に触れる人を増やすことが必要となるだろう。そして、人々の虫への抵抗感や嫌悪感を取り除く必要がある。避けられがちな虫をどのようにすれば人々に好印象を与えられるのかを考える。</p> <p>以上の3点から虫を食べることの便益を考え、虫を食べることで幸福、便益をもたらすことがわかれば、ビジネスという形で虫の可能性を検討していくことを研究の目的とする。ビジネスとして虫を食べることができるのならば、それが食糧危機を改善する出発点となる可能性を探りたい。インターネットや書籍から情報を収集し、虫を食べることをこれまでゼミで学習してきた知識を用い費用と便益を論理的に考えていく。</p>		